

## 1、参加目的

日本と同じ島国であるスリランカで魚の流通スタイルについて学ぶため。

日本の水産流通は衰退している一方、スリランカの漁業は成長産業であり主幹産業となっている。そこで、スリランカと日本の販売形式の違いを含め、さかなスタイルの学生団体の起業に良い結果をもたらすと考え、参加した。



## 2、大変だったこと・つらかったこと

スリランカにはディープな道が何か所かあり、そこを通らないようにすることが大変だった。実体験として、野犬のテリトリーに入ってしまう5分ほど追いかけられた。また、彼女がオーストラリアに滞在しており日本では時差が1時間だったもののスリランカでは3時間半もあり、電話が出来ない日が多々続きつらかった (笑)



(怪しいバス内でロシアの方と)



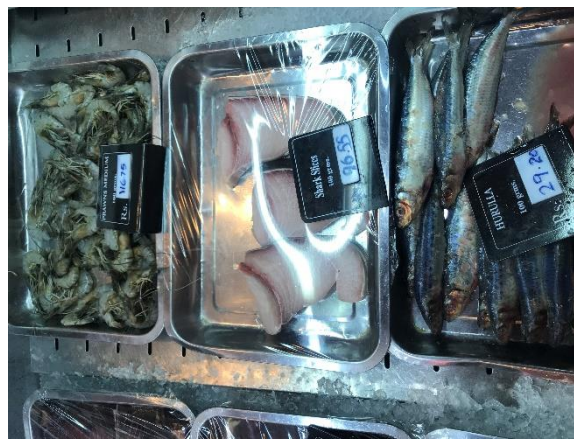
(野犬に襲われる10分前)

### 3、楽しかったこと

スリランカの魚市場に行き、現地の魚を見ることができたり、向こうでの競りを見学できたりしたことがなにより楽しかった。日本では見られない魚を見たり、現地のスーパーでサメが売られていたりして、かなり刺激的で楽しかった。



(市場で鰭の為に売られていたサメ)



(地元のスーパーでサメの切り身が！)

### 4、達成できたこと

魚市場を見に行けたこと。また、海沿いのスーパーはもちろん内地のスーパーでの魚の取り扱いも知ることが出来たことはこれ以上ない経験だった。また、現地の漁師兼競り人に魚の競りやスリランカでの漁業方法等も詳しく聞けることが出来た。



(イワシの量り売りの様子)



(市場の様子、人がすごい)

### 5、渡航前と渡航後の自分の変化

プランを組み立てない性格だったが、スリランカではプランを組み立てないとある程度の行動が出来ないことに気づきプランを組み立てるようになった。また、2でも取り扱ったが電話が出来なかったことにより、今まで以上に時間の大切さに気付いた。

## 6、現地での商品の反応

私は日本茶をPRしてきた。スリランカ人を初めベルギーやドイツ、ロシアの方たちに日本茶を飲んでもらったところ「思った以上に爽やかでのみやすい」という反応が多かった、海外の人からは **Japanese green tea** という名前で伝わっており彼らは抹茶しか知らなかったのか？ 苦いイメージを持っていたらしく、もっと日本茶をうまく海外にPRすることが出来ると販売先確保がもう少し簡単になってくるのではないかと考えた。



(百両、ドイツの方と)



(ゲストハウスの友達と)

## 7、商品が現地で広まるためには、どうする必要がありますか

試飲会をするのが一番ベストだと思う。やはり、日本茶に対して苦いというイメージがあまりにも強かったため、実際飲んでみて日本茶の爽やかさや美味しさを伝えることが必要だと思う。また、国々に応じたお茶の飲み方の提案をすべきだと思う。実際スリランカでは紅茶の文化が強く、温かいお茶は好まない傾向が強かった。その為、水で作れるお茶の共有等が必要であると感じる。

## 8、海外インターンシップを通して、あなたにとって、「働くとは？」なんですか

生きるためや毎日の生活を過ごす為に欠かせない物だと思う。しかし、今回はあえて違う方面から考えてみた。

私にとって働くことは「自分の好きなものやことに対して如何に効率よくできるか」と考える。スリランカはトゥクトゥクやバスの運転手が多い。その人たちはなりたい仕事があるものの資本もなく、職もないためにそのような仕事に就いている人が多かった。その中で私は、もっと自分の好きなものやことをするのが働くことだと思う。私は「労働」と「働くこと」は別枠だと考えている。前者は、何かの為に労働をしていることを指し、後者は自分のしたいことに対して動くことを指していると感じる。以上が私の考える「働く」である。

### 9、現地での活動を振り返って、感じたこと

1つ目に、もっと吸収できたと感じる。スリランカに行く前からスリランカの流通や魚について調べておいていたらもっと現地の人と話が出来て、もしかしたら漁に連れていかせてもらえたかも知れないし、もっと魚について詳しく教えてくれていたに違いない。私は今回の活動を通してプラン能力のなさに痛感した。加えて、ある程度調べておくことにより更に繋がりが増えると感じた。

2つ目に、形式的な英語ではなく日常会話の英語をもっと話せるようになるべきだと感じる。私は、1週間スリランカに行くことで、強制的に英語しか使えない環境を作ることができたものの、現地の人やゲストハウスのオーナーとは上手く話すことが出来なかった。もっと話せていたらスリランカの案内や良い場所について詳しく聞くことが出来たに違いない。その点からも、今回のスリランカでは自分の足りない部分に気づけた活動になったと感じた。

